



西門紅樓

# 西門紅樓

## セクシャルマイノリティにフレンドリーな文化創意産業の拠点

西門紅樓は、日本統治時代の1908年に公設市場として建てられ、1997年に三級古蹟に指定されました。赤レンガ造りの美しい建物で、戦前は日本人が多く買い物をし、食事をしました。当時、西門紅樓から南西側(萬華)は台湾人が多く住む居住区で、現在の総統府がある東側は日本人の居住区でした。第二次世界大戦後は劇場や映画館として使われて、2000年に一部が火災で焼けましたが、現在はカフェも併設され、文化イベントや文化創意産業の拠点となっています。文化創意産業とは、台湾の文化を基盤としてアートな商品をつくる、または歴史的建築物をリノベーション(改修)して活用する等のビジネスです。



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ  
[https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot\\_north/264/](https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/264/)



エリア

台北市

テーマ

歴史

建築

LGBT

## 学びのポイント

### 1.

#### 台湾で広がる文化創意産業

文化創意産業は、現代の台湾社会を読み解く重要な考え方です。台湾では略して「文創」と言われます。自分たちの文化が持つ要素(デザイン、習慣、建築物など)を創造的におしやれで、モダンで、アートなものに変え、それらによってビジネスを行う産業です。文化創意産業は、台湾の様々な場所で見ることができます。例えば、台南市にある林百貨、台湾東部の花蓮市にある酒工場跡地を活用した花蓮文化創意産業園區等です。この産業の隆盛は、台湾の人々が自分たちの文化に自信を持っていることの表れとも言えます。

### 2.

#### セクシャルマイノリティにフレンドリーな台湾

2019年5月、台湾では同性婚が合法化されました。2020年時点では、東アジアで唯一のことです。もちろん、台湾社会にもセクシャルマイノリティへの偏見、差別は存在します。しかし、近年は、若い人々を中心にセクシャルマイノリティへの連帯、支援も広がっています。西門紅樓の内部にはジェンダーレストイレ(性別に関係なく誰でも入れるトイレ)が設置され、周囲にはセクシャルマイノリティが集まるレストランやバーがあり、西門紅樓は彼らにフレンドリーな台湾社会を実感できるスポットでもあります。

### 3.

#### 利活用される古蹟・歴史遺産

古蹟や歴史遺産と聞くと、大事に保存されているという印象を持つかもしれません。または日本の寺院のように静寂な雰囲気の内裏を思い出すでしょうか。しかし、台湾の古蹟や歴史遺産は違います。2000年に法律が変わり、その利活用が可能となりました。その結果、カフェやレストランが併設され、「文創」商品が販売されるようになりました。多くの古蹟・歴史遺産が、レトロでモダンな雰囲気を楽しむ「文化創意産業」の拠点になっています。